

令和 6 年 5 月 30 日現在

機関番号：13701

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23312

研究課題名（和文）地理的な見方・考え方を働かせた世界地誌学習のカリキュラム開発研究

研究課題名（英文）Curriculum Development Research for World Geography Study that Uses Geographical Perspectives and Ways of Thinking

研究代表者

長倉 守（NAGAKURA, Mamoru）

岐阜大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：20734205

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、実践文脈で転用可能な地理的な見方・考え方を働かせた世界地誌学習の具体的なカリキュラムについて、地理学、地理教育学、カリキュラム論の統合的な枠組みから、先行研究や実践事例を踏まえて単元カリキュラムを開発し、実践及び検証した。開発枠組みの特性である見方・考え方の構造的理解と本質的な問いのレベルへの変換、各学習活動と汎用性を有する見方・考え方に關する本質的な問いとの接合について有効性を提示した。学習活動を越えた汎用性のある問いの構造的な連鎖が生徒の見方・考え方の理解や駆動に作用し、学習活動に埋め込まれた考察の着眼点が可視化され、学習活動の取組や思考への寄与が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで地理的な見方・考え方を構成する概念については学術的に検討されていたが、実践文脈に援用可能な駆動や実装については検討されていなかった。また、学習指導要領の改訂により見方・考え方の駆動によるカリキュラム開発は喫緊の臨床的課題であった。本研究はこのような学術的・実践的課題に挑戦し、先行研究や実践事例を踏まえ新たな開発枠組みを提示するとともに単元モデルを開発し、その有効性を実証的に明らかにした。本研究で得られた知見は、学校現場に対するコンサルテーションや教師による開発及び省察の視点として援用が可能である。

研究成果の概要（英文）：This research examines a specific curriculum for learning world geography that uses geographical perspectives and ways of thinking that can be applied in practical contexts, based on previous research and practical examples from an integrated framework of geography, geography pedagogy, and curriculum theory. Based on this, a unit curriculum was developed, put into practice, and verified. The effectiveness of the development framework is suggested in terms of structural understanding of perspectives and ways of thinking, converting them to the level of essential questions, and connecting each learning activity with essential questions regarding versatile views and ways of thinking.

研究分野：教育学、教科教育学、初等中等教育学

キーワード：地理的な見方・考え方の駆動 実践的・実証的カリキュラム開発 見方・考え方の構造的理解 本質的な問いのレベルへの変換 汎用性のある問いの構造的な連鎖 考察の着眼点の可視化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

世界地誌学習は、中学校社会科地理的分野において、生徒の世界認識を育成する主要な学習であるが、昭和 33（1958）年版学習指導要領に登場して以降、地誌的知識を過度に重視する傾向にあるとの課題が指摘され続けている。平成 29（2017）年版学習指導要領では、内容項目について資質・能力の枠組みにより整理のうえ提示されるとともに、地理的な見方・考え方の駆動による資質・能力の育成が求められている。これにより地誌的知識と地理的な見方・考え方の融合による、新たなカリキュラム開発が期待されている。しかし、令和 3（2021）年度の全面実施を前に、議論は端緒についたばかりで、地理的な見方・考え方を構成する概念の整理に留まっている。他方で、地理学の原理に基づく学術的な議論は現場教師には難解であり、具体的なカリキュラム開発とその提示が喫緊の臨床的課題となっている。

2. 研究の目的

本研究は、実践文脈で転用可能な地理的な見方・考え方を働かせた世界地誌学習の具体的なカリキュラムについて、地理学、地理教育学、カリキュラム論の統合的な枠組みから、先行研究や実践事例を踏まえて、単元カリキュラムを開発し、実践及び検証することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 本地理的な見方・考え方を働かせたカリキュラム開発に関する原理や実践状況の整理を目的に、地理学、地理教育学、カリキュラム論の枠組みから、文献調査や実践事例の収集を行う。また、地理的な見方・考え方を働かせたカリキュラム開発に関する授業観察や中学校社会科教師を対象に調査を行う。

(2) (1)により明らかにした地理的な見方・考え方を働かせたカリキュラム開発に関する原理や実践状況の整理をもとに、地理的な見方・考え方にに関する概念の解釈とそれを踏まえた目標や単元構想、指導計画等のカリキュラムへの具体的実装を行う。

(3) 開発した単元カリキュラムについて、量的・質的分析によりその特性や有効性について解析及び考察を行い、得られた研究成果を整理・発表する。また、これらの参考点を学校におけるコンサルテーションにおいて活用するとともに、単元や分野を越えた汎用性のある資質・能力の育成への援用について検討する。

4. 研究成果

(1) 社会科地理的分野における見方・考え方である「位置や分布」、「場所」、「人間と自然環境との相互依存関係」、「空間的相互依存作用」、「地域」について、概念の考察とともに、カリキュラムの在り方について、実際の公開授業における単元「世界各地の人々の生活と環境」の事例分析を通じて検討した。学習指導要領や地理教育国際憲章、アメリカ地理学会と全米地理教育協議会による「地理教育ガイドライン」、日本学術会議による分野別の大学教育における教育課程編成上の参照基準の地理学における議論を基に考察し、とりわけ「場所」に関する見方・考え方について、自然的にも人文的にも多様な特徴に着眼し、人間と場所の相互依存関係を理解するための基礎となることを整理した。一方、カリキュラムの在り方については、実際に公開された授業案を基にした事例分析により、概念の解釈とそれを踏まえた目標や単元構想、指導計画等のカリキュラムへの具体的実装の重要性が明確になった。また、「地理教育ガイドライン」における中・高等学校課程の学習目標の基礎的な視点を、カリキュラム展開に援用することで、見方・考え方をより鋭敏に働かせて深い学びを導き、資質・能力向上への寄与が期待されることが明らかとなった。

(2) (1)を踏まえ、地理的な見方・考え方の構造モデルを検討した。地理的な見方・考え方については、教師にとり専門性が高く、概念の解釈が困難であることが指摘されていた。また学習指導要領では、地理的な見方・考え方について並列的に示され、相互関係が説明されていない。そこで、先行研究における議論をもとに各概念の関係性を検討し、図 1 に示す構造モデルを作成した。これを基に地理的な見方・考え方を構造的に理解し、単元カリキュラムへの実装に有効であることが明らかになった。世界地誌学習では、「空間的相互作用」と「地域」の見方・考え方に着目し、世界各州の地誌的特色を大観したうえで、地域的課題の関連について考察を求めている。しかしながら、単に「空間的相互作用」と「地域」の見方・考え方を駆動させるのではなく、それらの基盤にある「位置や分布」、「場所」等の他の見方・考え方の関係性に留意して、単元カリキュラムに実装する必要性を指摘した。

(3) 地理的な見方・考え方の問いのレベルへの変換について検討した。5つの見方・考え方の単元カリキュラムへの実装にあたり、地域的特色や課題を考察する際の本質的な問いとして、見

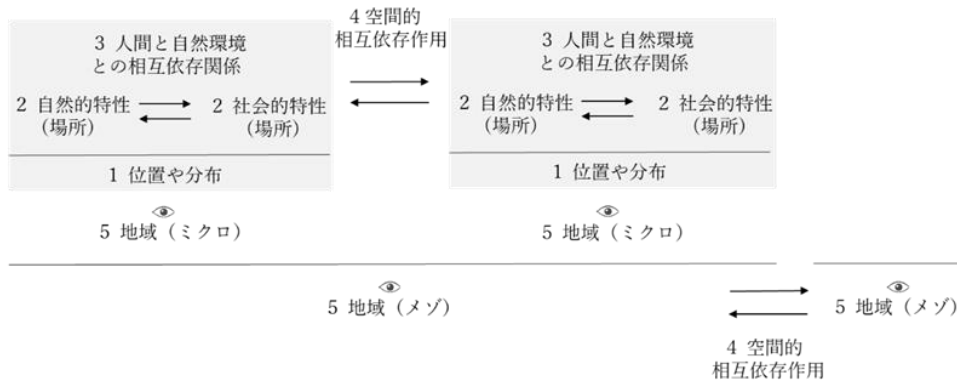


図1 地理的な見方・考え方の構造モデル

表1 地理的な見方・考え方に関する本質的な問い

| 見方・考え方 | 本質的な問い |
|------------------|--|
| 1 位置や分布 | ①それはどこに位置するのか ②それはどのように分布するのか |
| 2 場所 | ①そこはどのような場所なのか（自然環境のようす） ②そこはどのような場所なのか（生活、産業、社会などのようす） |
| 3 人間と自然環境の相互依存関係 | ①そこは自然環境からどのような影響を受けているのか ②そこは自然環境にどのような影響を与えているのか |
| 4 空間的相互依存作用 | ①そこは他の場所とどのような結びつきをもっているのか ②そこは他の場所とどのような結びつきをもつべきなのか |
| 5 地域 | ①その地域はどのような特色があるのか ②その地域はどのような課題があるのか ③そこはどのような地域にすべきなのか |

方・考え方を問いのレベルに変換し、生徒に駆動を求める必要がある。そこで、先行研究を参考に、地理的事象に対する着眼や考察に向かう視点として、「それはどこに位置するのか」、「それはどのように分布するのか」等、11の地理的な見方・考え方に関する本質的な問いを表1のとおり整理した。そのうえで単元カリキュラムの開発では、単元において育成を目指す資質・能力や取扱う内容との関連から、単元及び各授業時間において適用させる見方・考え方に関する本質的な問いを検討し、具体的な学習活動との接合を検討しながら単元カリキュラムに構造的に実装させることの有効性が明らかになった。

(4) 得られた知見を踏まえて、地理的な見方・考え方を働かせたモデル単元の開発について検討した。表2は世界地誌学習「アフリカ州」における見方・考え方を働かせた単元カリキュラムである。例えば、アフリカ州の第1時、アフリカ州の地形や気候について考察する授業場面では、

表2 見方・考え方を働かせた単元カリキュラム（アフリカ州）

| 単元課題 | 項目 | 時 | 学習課題等 | 主な学習活動 | 主に働かせる見方・考え方 | 1 位置 分布 | 2 場所 人間 自然 | 3 人間 空間 相互 | 4 空間 相互 | 5 地域 | | | | | | | | | | |
|--------------------|----|--------------------------------------|---|---|--------------|---------------|---------------------|---------------------|---------------|---------|----------------|---|-------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 大観 自然環境 経済状況 | 1 | アフリカの地形や気候には、どのような特色があるのだろうか。 | 世界最長のナイル川が流れる国、世界最大のサハラ砂漠が広がる国を確認しよう。 アフリカ州の気候の特色を、赤道からの距離に着目して説明してみよう。 | 1①それはどこに位置するのか 1②それはどのように分布するのか 3①そこは自然環境からどのような影響を受けているのか | 1 ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | トピック1 歴史的背景 | 2 | アフリカの歴史や文化には、どのような特色があるのだろうか。 | アフリカの多くの国の国境線には、どのような特徴がみられるのか確認してみよう。 アフリカの多くの国で使用されている言語を三つ挙げよう。 植民地時代の影響は、どのようなところにみられるのか、説明しよう。 | 1①それはどこに位置するのか 2②そこはどのような場所なのか(生活、産業、社会などの様子) 1②それはどのように分布するのか 2②そこはどのような場所なのか(生活、産業、社会などの様子) 2②そこはどのような場所なのか(生活、産業、社会などの様子) 4①そこは他の場所とどのような結びつきをもっているのか | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総括 | 4 | アフリカが発展していくうえで、どのような課題や取り組みがあるのだろうか。 | これまでの学習を踏まえ、アフリカで課題となっていることを挙げてみよう。 アフリカで起こっている課題と必要とされる支援を結び付けて説明してみよう。 | 5②そこはどのような場所にすべきなのか 4②そこは他の場所とどのような結びつきをもつべきなのか 5③そこはどのような地域にすべきなのか | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |

「それはどこに位置するのか」や「それはどのように分布するのか」といった「位置や分布」の見方・考え方を選択し、授業の冒頭において、アフリカ州に対する地理的な着眼や考察に向かう視点として提示した。

(5) 開発した単元カリキュラムについて授業実践を行うとともに量的分析と質的分析を交え、実証的に検討した。授業実践については、A 市立 B 中学校第 1 学年（単学級）32 人を対象に、202X 年 10 月に、ヨーロッパ州、アフリカ州の順に実施した。表 3 は、見方・考え方の駆動に関する生徒の自己認識について、事前、ヨーロッパ州学習後、アフリカ州学習後における質問紙調査の分析結果の概要である。また、表 4 は、単元ポートフォリオにおける見方・考え方に關する省察記述についての質的分析の結果である。これらにより、見方・考え方の構造的な理解と本質的な問いのレベルへの変換を基盤に、各学習活動と汎用性をもった見方・考え方に關する本質的な問いとの接合といった、本研究のカリキュラムの開発枠組みの有効性が示された。学習活動を越えた汎用性のある問いの構造的な連鎖が生徒の見方・考え方の理解や駆動に作用するとともに、学習活動に埋め込まれた考察の着眼点が問いにより可視化され、学習活動への取組や思考への寄与が明らかになった。

表 3 地理的な見方・考え方に關する自己認識

| 見方・考え方 | 事前 | | ヨーロッパ州学習後 | | アフリカ州学習後 | | F 値 | 多重比較 |
|-------------------|------|------|-----------|------|----------|------|------|-------------------------|
| | 平均値 | SD | 平均値 | SD | 平均値 | SD | | |
| 1 位置や分布** | 5.75 | 1.54 | 5.69 | 1.36 | 6.38 | 1.39 | 7.15 | 事前<アフリカ* ヨーロッパ<アフリカ* |
| 2 場所† | 6.22 | 1.60 | 6.44 | 1.20 | 6.81 | 1.21 | 2.76 | |
| 3 人間と自然環境との相互依存関係 | 5.78 | 1.43 | 6.00 | 1.22 | 5.84 | 1.35 | 0.41 | |
| 4 空間的相互依存作用** | 4.66 | 1.43 | 5.31 | 1.24 | 5.47 | 1.64 | 6.57 | 事前<ヨーロッパ* 事前<アフリカ* |
| 5 地域† | 8.50 | 1.92 | 8.66 | 1.81 | 9.28 | 1.89 | 3.15 | |

† $p < .10$, * $p < .05$, ** $p < .01$

表 4 省察記述のコーディング

| カテゴリー | サブカテゴリー | ローデータ |
|----------|---------|---|
| 着眼点への気付き | 取組促進 | どういふ見方で授業をやるとか、どこを見て考えるかなどが分かってやりやすかった。 |
| | 理解促進 | 見方考え方を働かせて思ったことは、このことを働かせることによってより授業の内容が分かってくると思いました。 |
| | カード効用 | 先生が黒板にはっているのを意識して授業を行うといつもより考え方がわかるような感じがします。 |
| | 省察視点 | 他の国との結びつきをあまり考えていなかった。次回はしっかり考えたい。 |
| 変容の認識 | 深化認識 | 考える所がどういふのがよく分かりました。おかげで前よりも考えが深まりました。 |
| | 情意変容 | 前とは違う楽しい授業になっている。前よりもおもしろくなった。（前もおもしろかったけど） |
| 困難の実感 | 駆動困難 | 働かせるのが大変だった。ぜんぜん働かせることができていないと思う。 |

(6) 本研究で得られた知見に基づくコンサルテーションや単元や分野を越えた援用について検討した。コンサルテーションにおいては、単元カリキュラム開発時に単元モデル例を提示し、単元や本時における本質的な問いの学習活動への実装について解説のうへ協働的に検討するとともに、授業実践参観後には参考点の視点から省察を促した。汎用性のある資質・能力の育成については、地理的な見方・考え方と地理的な思考力・判断力・表現力との関連性に着目し、他の単元におけるカリキュラム開発と授業実践に応用した。これらにより、カリキュラム開発前後における参考点活用の有効性や単元等を越えた資質・能力の育成に關する知見を得た。今後もコンサルテーションや教師による単元開発及び省察の視点として援用し、授業実践の伴走者として支援を継続する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 長倉守・金澤翔平 | 4. 巻 37 |
| 2. 論文標題 地理的な見方・考え方を働かせる単元カリキュラムの開発に関する実践的研究 - 中学校社会科地理的分野「世界の諸地域」を事例として - | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 学校教育研究 | 6. 最初と最後の頁 154-167 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 長倉 守 | 4. 巻 36 |
| 2. 論文標題 教科固有の「見方・考え方」を働かせたカリキュラムに関する研究 - 中学校社会科地理的分野を事例として - | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 岐阜大学カリキュラム開発研究 | 6. 最初と最後の頁 89-97 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 長倉守・金澤翔平 |
| 2. 発表標題 深い学びを実現する見方・考え方を働かせたカリキュラム開発に関する考察 - 社会的事象の地理的な見方・考え方に着目して - |
| 3. 学会等名 日本学校教育学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 長倉守・金澤翔平 |
| 2. 発表標題 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせるカリキュラム開発に関する考察 |
| 3. 学会等名 日本社会科教育学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 長倉守 |
| 2. 発表標題 地理的な見方・考え方を働かせたカリキュラム開発に関する研究 - 「場所」の見方・考え方に着目して- |
| 3. 学会等名 日本地理教育学会 |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|